

早稲田大学大学院総合研究機構  
社会的養育研究所

包括的乳幼児里親養育支援研修開発  
プロジェクト報告書

2022年（令和4）3月



早稲田大学



## 目次

<b>第1章 プロジェクトの概要</b> .....	4
1. 背景・目的 .....	4
2. 実施内容 .....	4
3. 検討委員会 .....	5
<b>第2章 乳幼児里親養育支援モデルの作成</b> .....	6
1. 乳幼児里親支援モデルの構築.....	6
<b>第3章 乳幼児里親養育支援モデルの実践項目の検討</b> .....	9
1. 里親養育研修動画の作成 .....	9
2. Watch Me Play!プログラムの検討.....	10
<b>第4章 乳幼児里親養育研修モデルの実践内容</b> .....	15
1. 研修動画の公開.....	15
2. Watch me Play！プログラム研修会の実施.....	15
3. 乳幼児観察トレーニング .....	16
4. The Tavistock & Portmant 講師によるスーパービジョン .....	16
5. プログラムの評価の検討.....	16
6. Watch Me Play!プログラム実践に向けて .....	17

## 図表

図 1 乳幼児里親支援のモデル .....	7
図 2 Watch Me Play!で期待できる内容.....	10
図 3 Watch Me Play!とは .....	11
図 4 イギリスでの Watch Me Play!の実践.....	12
図 5 Watch Me Play!で得られるもの（養育者、子ども） .....	13
図 6 Watch Me Play!で得られるもの（支援者） .....	14

## 資料

資料 1 第1回 Watch Me Play!研修会.....	18
資料 2 第2回 Watch Me Play!研修会.....	19
資料 3 第3回 Watch Me Play!研修会.....	20

# 第1章 プロジェクトの概要

## 1. 背景・目的

我が国では、2016年児童福祉法改正以降、里親委託を増やすための施策が打ち出されるようになった。2020年度以降、特に乳幼児里親委託を促進することが各都道府県において喫緊の課題とされ、里親養育の支援やその質の向上が求められている。欧米諸国では、社会的養護のもとにいる子どもへの実証研究成果においては、できる限り早期に良好な家庭養育へ移行し、安定したアタッチメントを可能にする個別の関係を得ることが重要であることが明らかになっている。しかし、家庭養育への移行が全てを解決するわけではなく、個別の養育の質こそが子どもにとっては最重要であることも強調されている。

乳幼児のケアについては、衣食住を十分に保障し、安全な環境を用意するといったハード面においては、わが国の状況は優れた環境が用意されているといえる。しかしながら、社会的養護のもとにいる乳幼児は、人生早期に親からの分離や喪失を体験しており、なかには虐待やネグレクトなどの不適切な養育を体験した場合も少なくない。また胎児期からアルコールや薬物などのリスクに晒されるリスクも高く、子どもの養育には専門的な知識が求められる。

だが我が国においては里親養育の現場で社会的養護のもとにいる乳幼児に対して具体的にどのような支援が必要なのかについては十分な知識をもった支援が行われることはほとんどないのが現状である。加えて、我が国ではそうした乳幼児里親養育に関する情報を包括的に得られる研修やプログラムはほとんどなく、参考にできる情報も乏しい。そのため、本プロジェクトでは、乳幼児里親に特化した知識を学べる研修講義と、実践に基づいた子どもの観察方法や家族支援を含めた、包括的なプログラムの開発をおこなうことを目的とする。

## 2. 実施内容

### (1) 乳幼児里親支援研修モデルの作成

我が国の乳幼児里親支援に必要な内容を分析し、モデルを作成した。またモデルにそった実践の研修内容について検討した。

### (2) 検討委員会の開催

乳幼児里親支援のモデルを開発するにあたり、専門家による委員会を立ち上げその研修の中身と実施内容について検討を行った。

### (3) 乳幼児里親支援研修の実施

乳幼児里親支援研修モデルをもとに作成した研修の実施を行なった。

#### (4) 報告書の作成

乳幼児里親支援モデルにもとづく研修とその実践の内容について報告した。また研修の実践の終了は来年度以降であるが、現時点での研修モデルの実施状況についても報告を行なった。

### 3. 検討委員会

社会的養護のもとにいる乳幼児を包括的に支援するプログラムを開発するために検討委員会を開催した。日本版の乳幼児里親研修に必要とされる内容の検討と実践方法などについて議論を行った。

#### (1) 体制

【構成員】(50音順、所属先は2021年3月時点)

- ・長田淳子氏 (二葉乳児院)
- ・引土達雄氏 (国立成育医療研究センターこころの診療部)

【研究所】

- ・上鹿渡和宏 早稲田大学社会的養育研究所 所長
- ・岩崎美奈子 早稲田大学社会的養育研究所 所員
- ・御園生直美 早稲田大学社会的養育研究所 客員次席研究員

#### (2) 開催状況

プログラムの内容の開発と調査研究の検討のため2021年10月～2022年3月の間に、検討委員会を4回開催した。

## 第2章 乳幼児里親養育支援モデルの作成

### 1. 乳幼児里親支援モデルの構築

社会的養護のもとにやってくる乳幼児は、養育者の喪失や分離の他に虐待やネグレクトを経験したり、胎児期からアルコールや薬物の影響をうけたりなど、人生早期から心身のリスクにさらされやすいことが知られている。特に乳幼児期のトラウマ体験などに関しては、できるだけ早期に適切な介入を行うことで高い効果が期待できることが知られている。乳幼児期においては言語でのアプローチの心理療法などよりも、養育者による安全で安定的な養育の提供が何よりも重要になってくる。しかしながら、子ども自身が過去に受けた養育体験、虐待などを含むトラウマなどから、子どもは里親家庭に移動した後にも激しい泣きや養育者を避ける行動など、一般の乳幼児養育とは異なる行動が生じ、養育者との関係構築が難しく、養育者側に多くの不安や戸惑いが生まれることも多い。

この時期に適切な支援が入らないと、養育者が子どもの行動を理解できなかつたり、自分の養育能力を疑い育児へのモチベーションや養育者としての自信を失いやすくなる。そうした養育へのストレスや不安が、結果的に委託の中断を引き起こすことも珍しくない。

そのため、こうした社会的養護のもとにいる乳幼児に生じやすい心身の問題や、虐待やネグレクト、それに伴うトラウマの反応、また胎児期にアルコールや薬物に暴露されることの影響などに関する正しい知識、養育者の不安や育児の難しさに関する適切な養育支援の技術が求められる。

そこで、まずは乳幼児里親養育支援に必要とされる内容を検討し、養育者と子どもへの支援の実践を含む研修モデルを開発した（図1）。

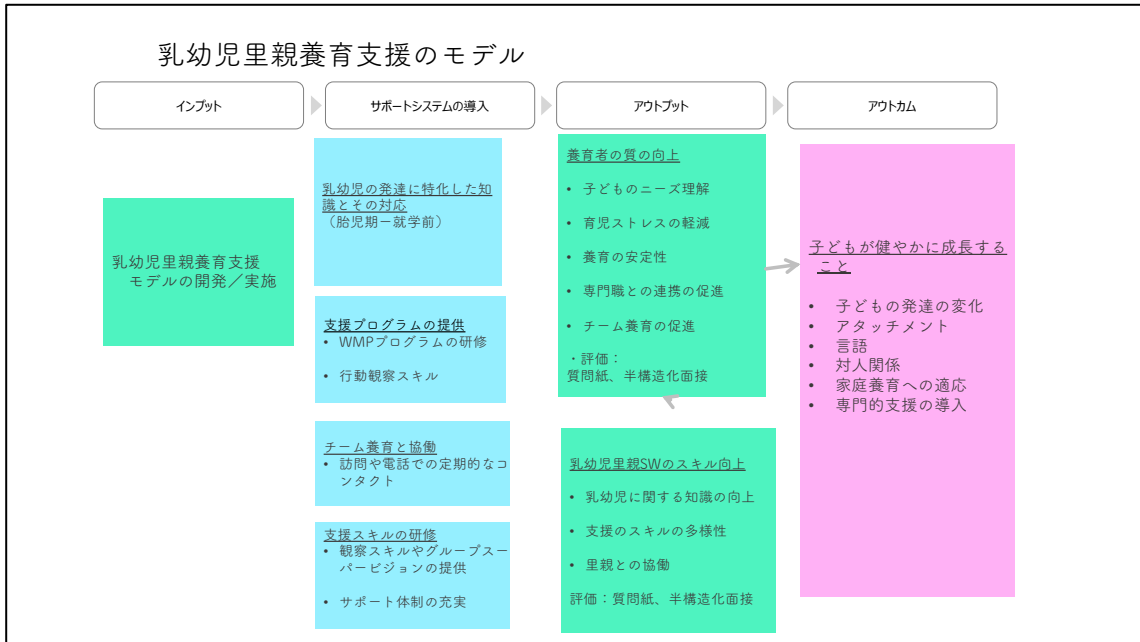


図 1 乳幼児里親支援のモデル

まずは養育に必須の知識やスキルの提供、そうした知識を実践の中で理解し、養育者との関係性の構築を含めたチーム養育を強化することが重要であると考えられた。また、支援者支援を含めた実践に使えるスキルも必要であると考えられたため、研修モデルの第一段階として支援者への乳幼児里親養育に関する知識とスキル面でのサポートシステムのモデル内容について検討した。

• 乳幼児の発達に特化した知識とその対応

乳幼児里親養育に必須の内容についての研修を行うことで、支援者に社会的養護のもとにいる乳幼児の養育に関する課題を理解してもらう。(詳細は3章の里親養育研修動画の項目を参照。)

• 支援プログラムの提供

実際の養育支援では、養育者と子どもとの関係の構築、またそれぞれの子どもの状態を理解した上でのきめ細やかな支援が必要とされる。乳幼児期のアプローチとしては、養育者と子どもが関係を深めることができ、かつシンプルで日常の家庭生活の中で行えるようなプログラムが良いと考えられた。そこで今回は乳幼児の情緒発達の支援や養育者との関係性の構築を目的として、英国で Tavisotck and Portman NHS で社会的養護のもとにいる乳幼児のために開発された Watch Me Play!プログラム (プログラムの詳し

い説明については3章で扱う)を使用することとした。

Watch Me Play!プログラムの習得に関しては研修を準備し、プログラムをより効果的に実践していくために乳幼児の行動観察のスキル向上のための乳幼児観察トレーニングも併せて行うこととする。

- チーム養育と協働

里親は家庭における養育がメインとなるために家庭内で問題がおこると家族全体に影響が広がりやすく、施設などに比べ専門職からすぐに助言を得られる機会も少ない。しかし乳幼児を育てている里親が自ら支援機関に出向くのは難しいことも多いことから、里親が孤立しやすい状況が生まれやすい。

孤立を防ぎ、里親がチームとして養育をしている感覚をもてるように実際の子どもの様子を見ながら定期的な訪問を通して、里親との協働を強化することが必要となる。Watch Me Play!プログラムでは月に2回の訪問を基本としていることから、日本でのプログラム実践から養育者との協働のなかでサポートを行う。

- 支援スキルの研修

乳幼児里親の養育支援に必要な、乳幼児観察や Watch Me Play!プログラムで子どもが行う遊びの理解、養育者サポートなど実践を通したスキル向上のために定期的なグループスーパービジョンを提供する。

上記の支援者への包括的なスキル向上のための研修やサポート体制を用意することで、乳幼児に関する基本的知識を高め、支援における実践スキルや、養育者との協働関係が強まっていくことが、結果的に乳幼児里親養育支援のベースとなる支援者の質の底上げにつながると予測された。

適切な知識とスキルを身につけた支援者が定期的に養育者と子どもの遊びに参加する時間をもつことで、子どものニーズを適切に理解することができるようになり養育者の養育の負担感や必要な専門的支援の必要性なども早い段階で気づけるようになる。

こうしたことから、育児ストレスの軽減やチーム養育の基盤がつくられることで、養育の安定性と共に養育の質の向上が期待できる。その結果、最終的に子どもを取り巻く環境の安定性が、子どものさまざまな発達を促すことが期待される。



## 第3章 乳幼児里親養育支援モデルの実践項目の検討

### 1. 里親養育研修動画の作成

社会的養護のもとにいる子どもに関連する課題や必要とされる支援内容について昨年度から続く専門家による委員会のなかで重要なテーマを検討し、支援者が学ぶべき内容についての検討を行った。その中で、胎児期のリスク、アタッチメント、トラウマ、虐待、ネグレクト、子どもの発達、地域支援などの項目が挙げられた。

その結果に基づき、各分野の専門家に研修動画の依頼を行い以下の研修動画を作成した。

- 坂野真里先生（虹の森クリニック）  
「里親支援員が理解しておくべき胎児性アルコール・スペクトラム障害（Fetal Alcohol Spectrum Disorders：FASD） の理解とその対応」
- 青木豊先生（あおきメンタルクリニック／目白大学）  
「乳幼児のアタッチメントとトラウマの理解と対応—社会的養護のもとにいる乳幼児の支援—」
- 山崎知克先生（浜松市子どもの心の診療所）  
「乳幼児期の発達障害を知ろう！～自閉スペクトラム症の理解と対応～」
- 松田妙子先生  
「子ども・子育てをさせるプラットフォーム～住民の共同を力として～」
- 花澤寿先生（千葉大学）  
「ポリヴェーガル理論について—育児支援・子育て臨床にどう活かすか？」
- 奥山真紀子先生  
「乳幼児への虐待とネグレクトとその影響」
- Dr. Graham Music（英国、Tavisotck and Portman NHS）  
「子どものネグレクト」  
「虐待と子どももの脳」  
「乳幼児の発達」  
「共感」

- Dr.Nick Migity (アンナフロイトセンター／ロンドン大学)
  - 「メンタライゼーションの入門」
  - 「メンタライゼーションと里親養育」

## 2. Watch Me Play!プログラムの検討

### 1. Watch Me Play!プログラムとは何か？

Watch Me Play!は、ボウルビィのアタッチメント研究で知られる英国の The Tavistock & Portman NHS において、里親支援のために主にソーシャルワーカーが使用するプログラムとして開発された、乳幼児のための遊びを通じたアプローチである。英国では国民保険が無料であることから、プログラムのマニュアル、また実施についても基本的に無料で提供されている。マニュアルは11ヶ国語に翻訳が行われており、現在では社会的養護の枠組みを超えて、一般の子育て支援や学校などでも利用されている。対象年齢は当初は英国での就学前である5歳以下であったが、現在では8歳まで適応範囲が広がっている。

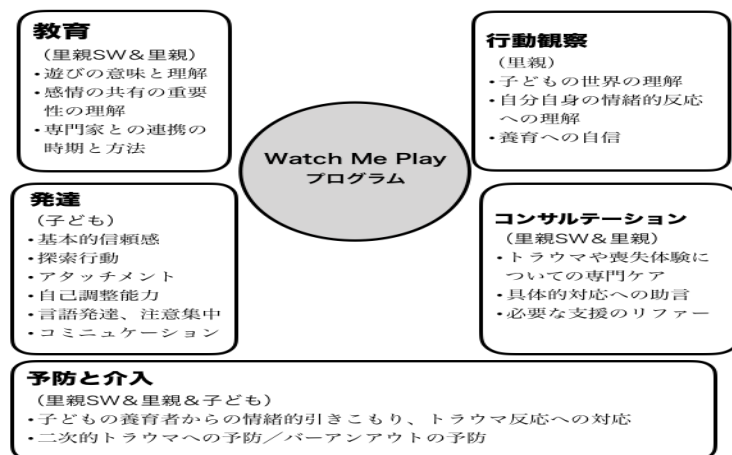


図 2 Watch Me Play!で期待できる内容

Watch Me Play!は教育的なものではなく、あくまで子どもの感情表出や情動共有が中心となり、効果的な実施にあたっては、できるだけ研修やコンサルテーションを受けるのが望ましいが、非常にシンプルな手続きかつ無料で導入できるため、マニュアルを読むだけでも実施可能である。

一般的に虐待やネグレクトを含むマルトリートメントや、喪失を体験した子どもは、他者から十分に理解されたり、情緒的な支援を受けたりする経験が少ないことから、自分の感情の表出や理解の場としての遊びに問題を抱える場合が多く、なかには強い恐怖感から、全く遊べない乳幼児も珍しくない。Watch me play! は、反応が少なかったり、非常に攻撃的な乳幼児であっても遊びの行動観察を通して、関わりのポイント見つけたり、子どもの内的な感情やアイデアに言葉を与えることで、子どもの内的世界を理解し、情緒的な発達を促すことを目的としている。

また短い時間でも、十分に子どもの世界を共有することで、養育者は子どもの喜び、楽し

み、怒り、恐怖、不安などの内的な状態について理解できるようになる。加えて、定期的な支援者とのふりかえりがあることで、子どもの遊びに頻繁にトラウマ反応などが見られた際には、他の支援者に子どもの内的状態を適切に伝えることが可能になる。衣食住のケアだけでは見えてこなかった子どものトラウマや発達の問題に対して、早期からの介入や連携、二次的トラウマの予防についてもアプローチができる。

上記の内容から、今回の乳幼児里親養育支援モデルの研修の実践には、Watch Me Play!プログラムの導入が効果的であると考えに至った。

## 2. Watch Me Play!のプログラムの実践内容

実施内容は養育者が子どもに1回20分ほど、子ども主導の遊びを週に2回以上行うことが奨励されている。また同時に支援者が定期的に訪問して実際の遊びに参加して、プログラムを一緒に行う。また20分の遊びの後には、支援者が養育者と一緒に子どもの遊びの振り返りを行うことで子どもの遊びや、それにとまなう養育者の気持ちにも寄り添うものである。

### WATCH ME PLAY! (WMP)とは?

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>• 養育者が家で赤ちゃんや幼い子どもの発達を促すためのシンプルな方法</li><li>• 1回20分、週に2-3回行う</li><li>• 養育者はその間、子どもだけに集中し十分な注目を子どもに与える</li><li>• 支援者が定期的に訪問する</li></ul> | <p>5つのステップ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 準備</li><li>2 赤ちゃんや子どもが主導の遊び</li><li>3 赤ちゃんや子どもの遊びを見守る</li><li>4 赤ちゃんや子どもと遊びについて話す</li><li>5 他の大人と子どもの遊びについて話す</li></ol> |
|---|--|

図 3 Watch Me Play!とは

子ども主導の遊びについては、他の多くのペアレンティングのプログラムの内容に含まれているスペシャルタイム、またはフォスタリングチェンジなどでのアテンディングなどと内容は類似している。しかしながら、効果が証明されている多くのプログラムではトレーニング期間が長期に必要であったり、トレーナーの養成に時間も費用もかかり、プログラムを実施するための構造やルールにうまくあわせることができないと実践できないなどの点から、残念ながら、実際の社会的養護の現場ではそれほど積極的に導入されていないのが現

状である。

Watch Me Play!では、子ども主導の遊びの項目にのみ特化しており、マニュアルを読んだだけで誰でも簡単に行えるように工夫されている。特に実際に日々の生活で子どもに最も近い養育者である、里親や、養親、また実親が気軽にできるように柔軟な枠組みになっている。

プログラムの中では養育者は Watch Me Play!のなかで子どもの自発的な行動ができるような安全な環境を用意することに加えて、子どもの行動や情緒的な体験に注目し、大人が教えたり、質問したりして遊びを中断させることなく、子ども主導の自由な遊びについていくことが奨励されている。

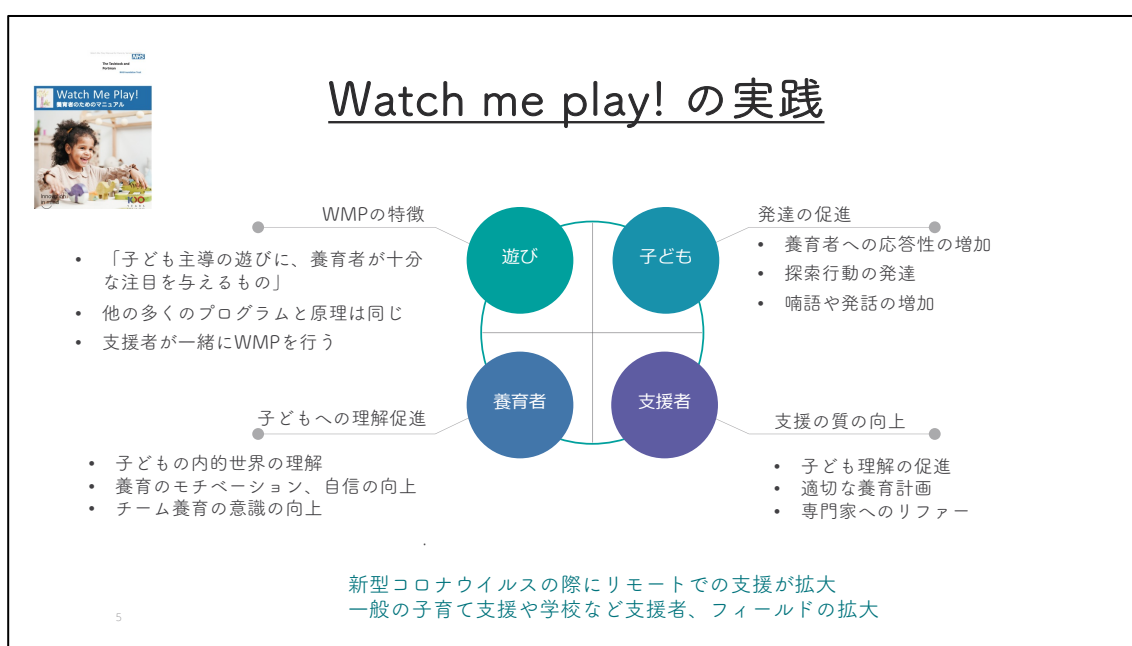


図 4 イギリスでの Watch Me Play!の実践

Watch Me Play!では子ども主導の遊びに養育者が十分な注意を与えるだけでなく、その中で子どもの行動や発想を言葉にしたり、子どもの経験や感情を言葉でまとめる作業を行っていく。子どもたちは、自分の行動に合わせて養育者が反応してくれること、また養育者がどこにも行かず自分だけを見ていてくれるという安心感から、より活発に探索行動をすることができるようになり、養育者への応答性が高まり、喃語や発話などが増えていくことが知られている。

養育者は子どもに集中する時間をつくることで、子どもの内的世界について深く理解することができるようになるだけでなく、支援者と定期的な振り返りの時間をもつことで、子どものことを共に考える仲間といったチーム養育の土台が出来上がる。こうした関係性が、Watch Me Play!の継続、また養育へのモチベーションの維持や、親としての

自信を高めることにもつながりやすくなるとされている。

支援者も定期的な訪問の中で一緒に子どもの遊びに参加することで、それまでの記録や、養育者からの断片的な情報のみで形成していた子どものイメージがより具体的で実際の正しい子どもの状態を知った上で理解することができるようになる。そのため、専門的な支援が必要な場合には、早期にリファーをすることができたり、子どもとの関わりの中で生じるさまざまな感情や困難を養育者と一緒に体験することで、養育の実態をより実感を伴って理解することで、子どもと養育者の状態に合わせた適切な養育計画の策定が可能になる。

WMPで得られるもの	
子ども	養育者
<ul style="list-style-type: none"><li>感情の制御、自己調整、集中力が高まる。</li><li>学校で必要となるスキル（アタッチメント、言語、記憶、注意、共有、交代）や発達全般を促進。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>子どもの視点に気づき、より深く理解することが可能になることで、<b>養育に自信</b>を感じられ、委託のモチベーションや継続性が高まる。</li><li>遊びへの自分の感情を考えることで、<b>二次的トラウマ</b>や子どもの感情についての理解が深まる。</li></ul>

図 5 Watch Me Play!で得られるもの（養育者、子ども）

子どもにおいても、自分だけの時間が確保されているという安心感から、それまで不適切な養育から養育者の動向に常に注意を払い、大人の注目を常に自分にとどめるためのしがみつき行動などが減少していくことも知られている。ネグレクトなどで人生の初めから養育者からの十分な注目をもらえる体験が不足している子どもたちも、少しずつ Watch Me Play!の体験をとおして信頼を高め、養育者への応答性や探索行動が増えるようになる。

その結果、子どもは安心して自分の遊びに没頭することが可能になり集中力が高まったり、大人から状況にあった行動や感情の意味を言語で伝えてもらう機会も増えることで、遊びを通しての感情の調整が促進される。混沌で変化の多い環境などから移動してきた子どもにとっては、定期的な遊びの時間が一貫した構造をもって維持されることで、繰り返しの中で子どもの記憶の補強、遊びを通じたさまざまなスキルの獲得もできるメリットがある。

他方、養育者は Watch Me Play!を行う中で、子育ての中での発見や喜び、変化について振り返ることができたり、葛藤や不安、心配などを支援者と話し合うことができるようになる。特に養育の継続に困難を抱えやすい虐待やネグレクトを受けた子どもの養育では、子どもの体験した恐怖や不安を取り込んでしまう二次的トラウマの症状から養育者が心身の不調を訴えるようになることも多い。そうした二次的トラウマへの予防や、子どもの状態に合わせた助言なども定期的に行うことが可能になる。

問題が深刻化する前に家庭の中でアプローチができることで、自分や子どもに何が起きているのか、また子どもの行動や自分自身の反応の理解を深めることで、養育の中断や不調を防止し、委託の継続に貢献することが可能になる。

## WMPで得られるもの（支援者）

- 子どもに集中的なアセスメントや介入が必要なのかのヒントになる
- 観察したことや理解したものをシェアすることで、里親の不安が減り生活の質や、委託の安定性が改善する
- 子どもが委託先を移動する前後にWMPをすることで、子どもの安定をえられる
- 専門家が子どもを理解するための多くの情報をえることができる

### 図 6 Watch Me Play!で得られるもの（支援者）

Watch Me Play!は、本来、アセスメントや特定の行動を改善するといった目的で作られたプログラムではない。しかしながら、支援者は Watch Me Play!を行うことで、専門家として子どもを理解するための多くの情報をえることができる。そうした情報は、子どもに必要なアセスメントや介入のヒントとして利用することができる。また観察したことや理解したものを養育者とシェアすることで、養育者の不安が減り生活の質や、委託の安定性が改善するだけでなく、子どもが委託先を移動せざるおえない状況になった時に、委託前や新しい委託後にも WMP を継続していくことで、措置変更などの子どもへの強いストレスがかかる時期にも、乳幼児期に必要な一貫した注目を与えることができるとされている。

## 第4章 乳幼児里親養育研修モデルの実践内容

### 1. 研修動画の公開

早稲田大学社会的養育研究所のホームページの「乳幼児里親支援研修・プログラムの開発・実践」の中にプログラムの参加者のみのクローズドの項目を作成し、オンデマンドの動画研修をしてもらった。動画内容で特に重要であると考えられた項目には、動画の内容に関する確認テストを実施した。

### 2. Watch me Play! プログラム研修会の実施

プログラムの基礎理解のために、事前に Watch me Play! についての概要の説明会を行い、事前に日本語の実践マニュアルを配布した。プログラム開発者である The Tavistock & Portman の Dr Jenifer Wakelyn によるオンラインによる質疑応答を2022年9月に3回実施した。

<b>第1回研修</b> 2021年9月9日
(参加者23名) <ul style="list-style-type: none"><li>● Watch Me Play!の概要と中心的概念の説明</li><li>● 質疑応答</li></ul>
<b>第2回研修</b> 2021年9月16日
(参加者26名) <ul style="list-style-type: none"><li>● Watch Me Play!の実践内容と養育者支援</li><li>● 質疑応答</li></ul>
<b>第3回研修</b> 2021年9月30日
(参加者26名) <ul style="list-style-type: none"><li>● Watch Me Play!の事例検討と遊びの重要性</li><li>● 質疑応答</li></ul>

参加者はプログラム実施者となる支援者（社会福祉士、臨床心理士、公認心理士）10名の他に児童相談所でフォスタリング業務行う支援者他11名と、研究所から5名を含む26名であった。初回はプログラムの概要説明（資料1）、2回目は実際の実践動画を視聴しな

がら養育者をどのようにサポートしながら子ども主導の遊びを行うのかについて解説し（資料2）、3回目は事例検討を行いながら、プログラムで実際に提供する内容について（資料3）の研修を行った。いずれの研修でも逐次通訳をいれた質疑応答をおこなった。

### 3. 乳幼児観察トレーニング

Watch Me Play!実施の前に、プログラムを行なっている英国やイタリアのケースを検証したところ、事前に乳幼児観察のトレーニングを受けていることが多いことがわかった。乳幼児観察は、Tavisotck and Portman NHS で開発されたトレーニングであり、現在は世界中で多くの臨床トレーニングに使用されているものである。Tavisotck and Portman NHS でもソーシャルワーカーなどのために短期の簡便な乳幼児観察トレーニングが行われていることから、Watch Me Play!の実践の前に日本版のトレーニングにおいても乳幼児観察を導入することとした。Watch Me Play!のプログラムの支援者を対象に、3歳以下の同じ子ども1人を、1回1時間で3回観察し、その後にグループスーパービジョン90分を3回実施した。

10名の支援者を5人ずつの2グループに分け、それぞれのグループに事前に90分の乳幼児観察に関するガイダンスをおこなった。観察の後には記録を必ず書き、その記録を元にグループスーパービジョンを行なった。

### 4. The Tavistock & Portmant 講師によるスーパービジョン

乳幼児観察トレーニング、また Watch me Play! プログラムにおいては、The Tavistock & Portman の教員であり、プログラムの開発者である Dr Jenifer Wakelyn から定期的に日本版の乳幼児里親支援プログラムにおけるアドバイスをうけた。英国と日本での乳幼児を取り巻く制度の違いや、養育形態、里親養育支援者が理解すべきトレーニング内容についても具体的に検討しながら、乳幼児里親支援プログラムを発展させた。

### 5. プログラムの評価の検討

プログラムによる乳幼児の発達の変化を捉えていくための、子どもへの侵襲性の低い生物学的指標としてアイトラッキングを使用するための課題を検討した。特に Watch me Play!プログラムでは、遊びを通じて養育者と子どもの関係性の変化などが起こりやすいことから、他者との相互交流における社会的認知能力に注目した課題を設定しパイロット調査を行うこととした。



## 6. Watch Me Play!プログラム実践に向けて

2022年1月から3月にむけてフォスタリング機関を中心に Watch Me Play!のプログラムに参加してもらうため家族の募集を Watch Me Play!の研修を終えた支援者に順次実施してもらっている。

動画研修は、この時期から2021年3月以降プログラムが終了するまでの間に自由に視聴してもらうように伝えた。また2022年度からは Watch me Play!プログラム対象となった家庭に支援者が月2回の訪問を6ヶ月間連続で実施する予定である。

また家族が見つかり次第、乳幼児観察と同様の5人ずつの2グループでの Watch Me Play!のグループスーパービジョンを月2回、6ヶ月を提供する予定である。

プログラム実践の報告は23年度以降に随時行う予定である。

## 資料 1 第 1 回 Watch Me Play!研修会



Dr Jenifer Wakelyn  
Tavistock and Portman NHS  
Foundation Trust, Programme  
Lead, WATCH ME PLAY!

Dr Naomi Misonoo  
御園生直美  
早稲田大学  
社会的養育研究所

1

### Watch Me Play!に関する3つの講義

# 1 はじめに

2

### 1 WATCH ME PLAY! (WMP)とは、何ですか？

- 親や養育者が家で赤ちゃんや幼  
い子どもの発達を促すためのシ  
ンプルな方法
- 実践者が子どもや親、養育者を  
支援するための柔軟な方法

**‘There’s not a lot of  
instructions but  
there’s a lot to gain.’**

3

### WATCH ME PLAY! の 5 つのステップ：

- 1 準備
- 2 赤ちゃんや子どもが主導の遊び
- 3 赤ちゃんや子どもの遊びを見守る
- 4 赤ちゃんや子どもと遊びについて話す
- 5 他の大人と子どもの遊びについて話す

4



### 2 なぜ子ども 主導の遊びが 重要なのか？

- 子ども主導の遊びは、発達や、その後学校で必要となるスキル（アタッチメント、言語、記憶、注意、共有、交代）を促進させます。
- 赤ちゃんや子どもの自由な遊びを見ることで、大人が子どもをよりよく理解することに役立ちます。

5

### 3 WMPは何を するの？

- WMPで、子どもの視点に気づくようになります。
- WMPは、より子どもを落ち着かせ、なだめやすくします。
- WMPで、親や養育者はより自信を感じられるようになります。
- WMPは、子どもに遊びを通してストーリーを語ってもらうことができます。

「やってみればみるほど、より簡単にできるようになります」

6

## 資料 2 第2回 Watch Me Play!研修会

Watch Me Playの3つの講義

### 2 実践者として WMPを始める

2

ビデオの提示

見るポイント

- ・子どもの遊びがどのように変化しているか
- ・母親が何をしているか

3

1 WMPを使い始めることを、養育者にどのように説明すればいいですか？

- ・養育者と個人的、あるいはグループで、子どもの成長や人間関係における子ども主導の遊びの重要性について話し合うことから始めてみるのもよい。
- ・子ども主導の遊びの重要性を、養育している子どもの経験やニーズと結びつける。
- ・養育者と一緒に、あるいは養育者グループで、遊びに関する自分の記憶や考えを探索する。
- ・マニュアルを見る。
- ・子どもにWMPをどのようにやるのか、みせる。
- ・里親が心配していることや、質問がないか聞く。
- ・WMPを子どもと5分が10分だけ試して、子どもや養育者がどう感じたかを話すように勧める。

4

2 初回の訪問後は、何をすればいいのでしょうか？

- ・ WMPをした後の養育者の考えや観察に興味を示す。
- ・ 子どもや里親にどうだったかを聞く
- ・ WMPの間、子どもは何をしていたのかを聞く
- ・ 養育者が週に2回以上、WMPを取り入れた日誌をみつけるように促す
- ・ 養育者に、Watch Me Play! を行う上で必要なことや難しいことを教えてもらう
- ・ セッションを重ねることで子どもの遊びや、子どもと里親の間のやりとりに変化がないか見る
- ・ マニュアルと一緒に見る

‘Encourage Show interest Look at the manual together’

5

3 毎回、子どもの遊びを観察したほうがいいのでしょうか？

- ・ 養育者と子どもが、あなたに子どもが遊んでいるところを見たいと思っている場合は、いいです。
- ・ しかし、多くの養育者にとっては、子どもがいなくても子どもの遊びについて話す時間を持つことが有益なことがある。子どもの遊びを観察すること、養育者と話すことをお互いに繰り返すことが有効な場合もある。
- ・ 養育者とWMPをやってみて、里に気づいたか、母が楽しんだか、母が楽しいかなど、ときどき一般的な話をするのもよい。
- ・ マニュアルに書かれていることを一通り確認することで、誤解を解くことができる。

6

4 里親さんにWMPのやり方を教えた後、なぜまた訪問しなければならないのでしょうか？

- ・ 養育者の中には、WMPをすることが自然で簡単だと感じる人もいる。彼らには助言しなくても必要ないかもしれない。しかし、多くの養育者にとってWMPは子どもとの関わりが全く異なるため、継続するためには、あなたのサポート、あなたの決心、あなたの協力が必須。
- ・ 里親など養育者になると、孤独やストレスを感じることもある。WMPと一緒に行うことで、仲間になったり、心配事を共有したりすることができる。一緒に行うことで、子どものことをもっと知ることができ、どのように支援するのがベストかを知ることができる。

7

## 資料 3 第3回 Watch Me Play!研修会

Watch Me Playの3つの講義

**3 観察、注目、遊び**

2

事例: モリー

モリーは未熟児として生まれ、ヘロイン依存の状態でした。生後2日目に母親と離れ、生後1か月まで乳幼の特別ケアのユニットで育てられました。彼女の金切り声で泣き、それは持続的で、慰めるのも大変でした。ジェーンは、モリーの発達、交流の過程、将来の養育について心配した。モリーは「有害なストレス (toxic stress)」を感じていた。感情を込めた養育と、心にとめてもらうことが彼女の助けになった。

© 2016 ZERO TO THREE (http://www.zerotothree.org)  
日本語の訳書と翻訳 (http://www.zerotothree.jp)

3

事例: ラシャーナ

3歳のラシャーナは、これまでに4回の養育者の交代を経験。彼女は可愛くて、礼儀正しくて、近寄りやすい子どもで、彼女は自分で人から距離を持っていた。Watch Me Play! で初めて遊び始めた。慰めを求めたり、興奮したり、声を出したりと、だんだんと3歳の子ともらしくなっていた。Watch Me Play! によって、彼女は自分の世話をしてくれる大人を信頼するようになった。

4

**なぜ子どもに十分な注目を与えることが、それほど重要なのでしょうか？**

見られていること、知られていることは、人になるために、つまり安定したアタッチメントと人格の発達のために不可欠。

5

**注目と遊びは補完関係にある**

○温かく関心を持って観察することで、子どもが落ち着き、遊びを促すことにつながる。

○子どもの遊びのスキルが高まると、大人が子どもの遊びを覚えていたり、考えたりしやすくなる。

6

**なぜ観察が重要なのでしょうか？**

観察とは、その子がどんな子で、彼らにどんなことが起きているのかを知ること。

観察は、理解を深めるだけでなく、コンテイン (包容) することもできる。

観察は、他の専門家の中に、子どもを生き生きと伝えることができる。

養育者は孤独でストレスの多い仕事です。子どもと一緒に遊ぶのを見ることで、ソーシャルワーカーは理解の仲間となり、心配事、成功、喜びを共有することができます。

7

早稲田大学大学院総合研究機構  
社会的養育研究所

包括的乳幼児里親養育支援研修開発  
プロジェクト報告書

2022（令和4）年3月

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION